

先日開催した「智頭農林高校の未来を語る会」での質問に対する回答です。

【質問】

智頭農林高校の沖代圃場での稲作実習がなくなったのはなぜか。

【回答】

現在、農林業教育の方向性が、従来の技術教育重点から大きく変化している現状を受け、ふるさと創造科の設置等の学科の改編を実施するとともに圃場の在り方も見直した結果です。

- ・基本的な農林業の生産技術を基盤とするが、地域の実情や地域産業等を考え生産技術の内容を精査することが必要であること。
- ・素材（農産物）の生産、加工、販売まで一貫して行う「農林業の6次産業化」の重要性が高まっていること。
- ・地域の農林業・産業の実情を踏まえ、地域と連携した農林業教育を推進することで、生徒の様々な能力や主体的に学ぶ力を育成すること。

このことを受け、本校では学科の改編にあわせ、稲作と生物工学分野を廃止し、野菜・草花栽培と食品加工を主とした技術・生産教育に切り替えました。また、智頭町で特産品化を目指している「ルバーブ」や地域の伝統的な「藍染め」、「ちのりんショップ」での販売等地域と連携した取組を拡大しました。そして、農林業教育や地域との連携を通じ、コミュニケーション能力や協調性等の幅広い能力を育てたいと考えています。

さらに、校内での学びでは、生徒が共に学びあう協同学習やタブレット型端末等の活用を通じ、生徒が主体的に学ぶ力の育成にチャレンジしています。

そのため、従来の多種、大規模の農業生産から圃場の規模を適正なものにした上で、生徒、教職員が余裕を持ち様々な挑戦ができるように計画しました。

今後ともより充実した農林業教育が実施できるよう努めて参りますので、御理解と御支援をお願いします。